中原　泉
一枚の写真
⑮

フィリピン大学の学長就任式

フィリピン大学のN. C. ヘルヴァシオ歯学部長が，1992年（平成４年）４月に本学を訪問した。新任の彼女は毅然としたDeanであったが，飾らない気さくな人柄にすぐに打ちとけ意気投合した。

帰国３ヵ月足らず，Dr. ヘルヴァシオから，姉妹校の提携を求める文書が届いた。その熱いプロポーズをうけて，私たちは同意書を郵送で交換し，11月１日付で姉妹校となった。彼女は1998年（平成10年）には，半年間，客員教授として新潟に滞在した。ヘルヴァシオは会うたびに，「日本人にはdiscipline規律がある」と三嘆した。

私と小倉英夫教授は，2000年（平成12年）４月に初めてマニラを訪れ，フィリピン大学の学長就任式に列席した。同じく，ヘルヴァシオが同副学長に就任するので，お祝いに駆けつけたのである。24日，就任式は国際コンベンションセンターにおいて，同大学卒業式にあわせて挙行された。フィリピン大学は同国最大最高の国立大学で，私たちは盛大な華やかな就任式に圧倒された。

翌々日，マニラ郊外のヘルヴァシオ邸に招待された。当時まだ治安が悪かったが，広い邸内には50人をこえる家族親類が集まっていた。毎月１回かならず一族が集うとのことで，今回は私たちの訪問に合わせたらしい。開放された邸内を子供たちが駈けまわり，食事をつくるご夫人方のお喋りが絶えない。私たちは，家族親類を大切にする彼らの絆の深さに感動した。

昼食を囲むと，ヘルヴァシオの長兄の老翁が，タドタドしい日本語まじりによもやま話を語る。日本の統治時代に日本語教育をうけたというが，彼は懐かしそうに幼年時代の想い出に花を咲かせ，私たちを心から歓待してくれた。私は，その温容に自分の伯父さんと語り合っているような錯覚を覚えた。

現在，本学大学院（新潟）をでたDr. V. O. メディーナⅢが，同歯学部長を務める。昨年10月にフィリピンを襲った巨大台風の災禍に際し，本学では彼宛に心ばかりの義援金を送った。

（写真：初めて来学したDr. ヘルヴァシオ）